

毎年、春と秋に2～3週間の一人歩き旅を続けている。今年（2017年）は春に四国遍路を結願したので、秋は熊野古道に決めた。理由は、四国八十八カ所遍路の険しい道と同じような道を歩きたいと思ったから。

熊野古道には「紀伊路」「中辺路」「大辺路」「小辺地」「伊勢路」「大峯奥駈道」の6つの道がある。今回は大阪から始まる紀伊路を通して和歌山県田辺市に向かい、そこから一番ポピュラーな中辺路を経て熊野三山（熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社）に至るコースを採った。

6月から日帰りで歩き始め、8月までに5回歩いて和歌山市に至り、その後は11月13日から23日まで11日間かけて、紀伊路の残りの中辺路を歩いた。



<赤は今回歩いたルート>

■ 夏の日帰り歩き

① 6月5日 紀伊路の始まり、大阪天満橋から 堺へ（大阪市・堺市） 14km 晴

京阪天満橋駅向かいの昆布処「永田屋」前に「八軒屋船着場跡の碑」があり、古代、熊野詣のために京都から淀川を下ってきた皇族や貴族たちはこの船着場で船を降り、ここから紀伊路を通して熊野へ向かった。道々には、はるかに遠い熊野までの道しるべとなり、詣での人々を迎えてひとときの休息の場を与えた王寺社と呼ばれる神社がある。大阪から熊野本宮大社までの王寺社は総称して九十九王子と呼ばれている。この旅も、道々の王子を順番に辿って旅をすることにする。



<坐摩神社行宮>

昔に習い、先ず船着場跡の傍に第一王子の窪津王子を祀っていた「坐摩神社行宮」に参ってから旅を始めた。窪都王子から坂を上って上町台地を行くと、「熊野街道」と刻まれた新旧の石碑や案内板がそこここにある。街道を間違えずに歩くには、山と溪谷社「熊野古道を歩く」にある簡単な地図を道路地図に書き写した地図と、これらの石碑や案内板が頼りになる。

聖徳太子が建立した日本仏法最初の官寺「四天王寺」。天王寺駅。安倍晴明誕生の地「安倍晴明神社」、ここで昼食。安倍晴明神社の傍にあり、大阪府で唯一現存する王寺社「阿倍野王子神社」。海上交通の守護神とする信仰で知られる「住吉大社」など、大阪を代表する神社仏閣に参拝し、梅田や心齋橋とは違った古い大阪の情緒が残る街並みを眺めながら歩いた。

紀伊路は世界遺産に登録されていないが、道に王子跡の碑や案内板がよく整備されている。大阪市と堺市との境界、大和川を渡った所で一日の行程は終了。

第一「窪津王子」から第六「津守王子」まで歩き、南海浅香山^{あさかやま}駅から帰途につく。

② 6月22日 堺^{いずみふちゅう}から和泉府中へ（堺市・高石市・和泉市） 18km 曇

浅香山駅を出発。摂津、河内、和泉国の境にあることから中立で方位のない聖地として崇められ、方除^{ほうよけ}祈願で有名な「方違神社」。日本最大の前方後円墳「仁徳天皇陵」。周囲は広い公園になっていて、おじさん達がたむろする憩いの場。千利休ら、堺の茶人が禅を学んだという「南宗寺」。和泉国一宮の「大鳥大社」。平日なのに露天で古着や骨董品を売る店が並んでいた。歴史があるのだろう。

この日は夏至の次の日。昼は真上からの日差しなので身体が帽子の影に入っ、さほど暑くなかった。古道には古い家並みがまだ残っていた。道を何度も間違えた。

第七「境王子」から第十「平松王子」まで。JR和泉府中駅から帰途につく。

③ 7月13日 和泉府中^{いはらのきよ}から井原里へ（和泉市・岸和田市・貝塚市・泉佐野市） 15km 晴

気温は34度くらいだったろう、暑い。紫外線対策として、初めてタオルで顔を覆って帽子を被ってみるとずいぶん楽になった。早くタオルを使っていれば、顔のシミも減っていたかもしれない。

堺市から南にある多くの市は未知の町だ。道も分りづらい。土手に熊野みちと書いた粗末な案内があったので、怪しみながら行ってみると藪で行き止まり。戻るのもしんどいので草に覆われて見えない足下を探りながら進むと、片足がズボッと空を切った。コンクリートの深い溝になっていたのだ。危なかった。途中6つの王子はチェックしたものの印象は薄く、道を何度も間違え、暑くてしんどい一日だった。

第十一「井ノ口王子」から第十六「鶴原王子」まで。南海井原里駅から帰途につく。

④ 8月10日 井原里^{やまなかだに}から山中溪へ（泉佐野市・泉南市・阪南市） 14.5km 晴

鉄道の関西空港線と空港自動車道の高架下を抜けると、大坂夏の陣最初の合戦で徳川方が勝利した「榎井古戦場跡」の碑があった。古い家並みが所々にある中、巨木が見えたので立ち寄ると

「岡中鎮守社」の楠だ。地域の人達が楠の木陰で打ち合せをしており、地域の人はこちらをよく使っているのだろう。私もここでコンビニおにぎりの昼食。とにかく暑かった。

第十七「佐野王子」から第二十三「馬目王子」まで。JR山中溪駅から帰途につく。



<岡中鎮守社>

⑤ 8月24日 山中溪^{おやま}から雄ノ山峠^{きかわ}・紀ノ川へ（阪南市・和歌山市） 14km 晴

JR阪和線の大阪府最後の駅となる山中溪駅を出発して、和歌山県との境になる雄ノ山峠に向かう。途中、境となる小さな境橋があり、その傍に「日本最後の仇討ち場」の碑があった。案

内には、

【1857年、土佐藩士広井大六は、同藩士棚橋三郎に、口論の末切り捨てられた。大六の一子岩之助は、当時江戸に申し出て、いわゆる「あだうち免許状」を与えられた(1858年)。岩之助は紀州藩の加太にひそんでいた三郎を発見し、紀州藩へ改めて、あだうちを申し出たところ、紀州藩としては「三郎を国ばらいとし境橋より追放するので、あだうちをしたければ境橋付近、和泉側にて、すべし・・・」と伝えられた。1863年、岩之助は境橋の北側(和泉側)で待ちうけ、みごとにあだうちを果たしたとされる。これは、日本で許された最後のあだうちであると伝えられる。】

とあった。仇の三郎、それを探し出して討つ岩之助。二人の心情や日々の暮らしはどうだったのだろう、などを思いながら進んだ。峠を下って紀ノ川に架かる川辺橋を渡った。

第二十四「中山王子」から第二十七「中村王子」まで。JR和歌山線布施屋駅から帰途につく。



■ 秋の通し歩き

<暑い!>

⑥ 11月13日 矢田峠・汐見峠から 海南へ (和歌山市・海南市) 18km 晴

夏の日帰り歩きは普段使っている20ℓのリュックサックを使ったが、秋の通し歩きは衣服や雨具が増えたので30ℓのリュック替え、重さは6kg弱になった。

布施屋駅を出発してまもなく和佐王子跡近くに和佐地区の案内板があり、そこに松下幸之助(現パナソニックの創業者)の生誕地や、和佐大八郎の墓などが記されていた。佐大八郎は江戸時代、紀州藩士の弓術家。京都三十三間堂(121.5m)で、一昼夜に矢を13,053本射た内、8,133本射通して天下第一となり、以後破られていないとある。6秒~7秒に1本、休みなく24時間射つづけた勘定になる。超人だ。

矢田峠を下ると、紀伊国一宮「伊太祁曽神社」がある。ご祭神の五十猛命は木の神として崇められており、林業と共に、木で船を造るので漁業関係者の信仰が篤いという。ここ木の国(紀伊国)の神といえる。

第二十八「吐前王子」から第三十五「菩提房王子」まで。

宿) JR海南駅前 ビジネスホテル「カンヌ」素泊 4,500円。 長期滞在設備がある宿。

⑦ 11月14日 藤白坂から 拝ノ峠・糸我峠越え (海南市・有田市・湯浅町) 18.4km 雨

一日中小雨。ポンチョは被らず傘にした。全国の鈴木姓のルーツ「鈴木屋敷跡」を過ぎてから、藤白鈴木氏が代々神職を務める「藤白神社」に寄る。社務所に“全国の鈴木さんいらっしゃい”というポスターがあった。境内の楠の巨木は子守の宮として古来信仰され、この神様から楠・熊・藤などの名前を授かる人が多く、南方熊楠もその一人という。



藤白坂のあと、拝ノ峠に向かう途中の海南市

<藤白神社>

下津町は昔からみかんの産地で、川沿いの古道にはみかん御殿が続く。そこにある「橘本神社」は 1900 年前、田道間守が常世の国に渡り、「橘」（たちばな・現在のみかんの原種）を持ち帰り、この地に日本で最初に植えられたとある。その昔、橘の実で最初にお菓子がつくられたといわれていることから、みかんと菓子の神様として全国のみかん・菓子商人から崇敬されている。

みかん畑が続く拝ノ峠を越え、有田市に入っても道はみかん畑。有田川を渡って「くまの古道歴史民俗資料館」に寄り、歴史絵巻や当時の宿場の賑わい描いた絵などを観る。ここから 3 つ目の山越えとなる糸我峠を越えて湯浅町に入った。湯浅は湯浅姓発祥の地とある。この日は木の神様、みかんの神様、鈴木姓・湯浅姓、など元祖の神様や名前発祥の地に多く巡り会った。

この日歩いた海南市、有田市、湯浅町は熊野古道を大切にしている、道標や案内板や施設が良く整備され、立ち寄る場所も多くて内容の濃い一日であった。ただ、雨で靴が滑る中、傘を持って急な峠 3 つ越えるのは危なく、疲労困憊した。距離は昨日と変わらないのに、時間は 2 倍の 10 時間かかってしまった。

第三十六「^{はらえど}祓戸王子」から第四十五「^{さかさがわ}逆川王子」まで。

宿) 湯浅町 ビジネスホテル「てまり」素泊 4,500 円 築 45 年、古い。

⑧ 11月15日 ^{ゆあさ}湯浅から^{ししがせ}鹿ヶ瀬峠・御坊へ（湯浅町・広川町・日高町・御坊市） 24km 晴

雨上がりの朝は清々しく、最高の気分で歩ける。

この日は距離が長く、大きな鹿ヶ瀬峠の山越えもあるので覚悟して向かったが、峠はコンクリート舗装の林道と長い石畳があつて越えるのは思ったより楽だった。

峠を下って御坊市に入り、安珍清姫伝説の「^{どうじょうじ}道成寺」に至る。この話は中辺路の^{まなご}真砂に住む清姫が、熊野権現に参拝する安珍に一目惚れしたが逃げられ、追いかけるうちに大蛇と化し、道成寺の鐘の中に隠れた安珍を見つけて焼き殺してしまうという物語。真砂には立



<鹿ヶ瀬峠>

派な清姫茶屋や清姫の墓があつた。この話が何百年も伝わるというのは、人が女の底知れぬ情念を感じるからだろうか。よく解らないが、女は怖いということだけは解る。

第四十六「^{くめさき}久米崎王子」から第五十七「^{くあま}九海土王子」まで。

宿) 御坊市 ビジネスホテル「セントラル」素泊 5,300 円。洗練されていない。

⑨ 11月16日 御坊から^{いわしろ}榎木峠・岩代王子社へ（御坊市・印南町・みなべ町） 26km 晴

ここから海辺に沿った道が多くなる。かえるがトレードマークの漁港の町印南町で、幼児を負ったお母さんにコンビニの場所を訪ねると、親切に後から追いかけて来てまで案内してくれた。熊野古道は四国遍路のような地域の人との交流は少ないので嬉しかった。

JR 紀勢線切目駅に昼食をとるため入ると、ベンチに 40 歳くらいの男性がいた。西国三十三所を巡るため、堺市の自宅を出発して十日余りで一番札所那智山「^{せいがんとうじ}青岸渡寺」へ行き、参拝を終えて二番札所和歌山市の紀三井寺に向かう途中という。寝袋をキャリアに積んでいて宿には泊まらないらしい。動機を聞くと、亡くなった母親のお骨を西国三十三所のお札と一緒に新し

いお墓を造って納骨するためという。なんでも、高校生のとき学校の講師をしていた永瀬忠志先生（リヤカーを引いて地球4万キロを歩いた人）の話聞いたことがあり、それも一つのキッカケになったと言っていた。

西国三十三所は約1,000km、四国八十八カ所は約1,200km。四国より短いですが、寺と寺との距離が離れていて歩く人が少ないこともあるのか、和歌山県で冷たい視線や嫌がらせや職務質問を何度も受けたそう。旅のエチケットを厳格に守って歩いている実直そうな人なので、無事に成就することを願わずにはられない。

予約していた民宿に着くと、「宿はもうやっていない、予約も受けていない」とおじいさんが言う。しかし、電話に出たおじいさんの声に間違いはない。家の中はゴミが溢れて泊まれるようなものではなく、おじいさんの様子も変だ。運良く前に民宿が一軒あったので助かった。

第五十九「岩内王子」から第六十六「岩代王子」まで。

宿) みなべ町 民宿「岩代荘」素泊 4,500円。 仕出しもしている。

【 後編 につづく 】